

授業科目名	日本語教授法	単位数	2単位
担当教員名	奥元さえ美	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係 該当なし			
授業のテーマ及び到達目標 ・日本語教育におけるさまざまな教授法とその実践的知識を修得する。 ・学習者が置かれている環境を理解し、その環境に合った授業が組み立てられることを目標とし、初級教材の分析、コースデザイン、授業展開を理解することができる。			
授業の概要 日本語教育における教授法の基本的知識、授業に必要な技能を学修し、初級日本語の授業が組み立てられるようになる。指導教員の提示する教授法を自分自身に落とし込み、自分なりの授業が組み立てられる知識、技術、方法を学修、体得する。この科目は単独受講できない。 「日本語教育演習Ⅰ」「日本語教育演習Ⅱ」で教案を作成し実際の授業を組み立てる前段階の科目である。			
授業計画 イントロダクション：日本の在留外国人、多文化共生とは、世界と日本の社会と文化、世界と日本の日本語教育事情、異文化間コミュニケーション、異文化受容・適応 第1回：第1章「日本語教師の役割」日本語教師の資質・能力、日本語教育史、言語政策、言語学習、社会文化能力 第2回：第2章「日本語を教えるということ①」第一言語、第二言語習得過程、異文化受容・適応、日本語の学習・教育の情動的側面、コースデザイン・ニーズ・レディネス調査・条件分析、中間言語分析 第3回：第2章「日本語を教えるということ②」教授法の選定・シラバス、日本語教育のプログラムの理解と実践 第4回：第2章「日本語を教えるということ③」カリキュラム・教材の選定・分析、授業計画、教室・言語環境の設定、授業分析・自己点検能力、日本語分析 第5回：第3章「初級の教え方①」文字/読解/文法、意味体系 第6回：第3章「初級の教え方②」発音/会話、談話理解、コミュニケーション教育、日本語語用論的規範、言語運用能力、対人関係能力、異文化理解能力 第7回：第9章「いろいろな外国語教授法 1～2」外国語教授法の変遷・近世の外国語教授法 20 世紀の外国語教授法・直接法、目的・対象別日本語教授法 第8回：第9章「いろいろな外国語教授法 3～4」オーディオリンガルアプローチ・コミュニカティブアプローチ 第9回：第9章「いろいろな外国語教授法 5～7」TPR・サイレントウェイ・CLL 第10回：第9章「いろいろな外国語教授法 8～10」ナチュラルアプローチ・コミュニカティブアプローチ 第11回：第9章「いろいろな外国語教授法 11～14」サジェストペディア・内容重視の教授法・タスク重視の言語教授法 第12回：第6章「中上級の教え方」読解教育、受容・理解能力 第13回：第6章「中上級の教え方」新聞を使った読解教育・レリア、学習ストラテジー、ICT教育、著作権 第14回：第8章「評価と試験 3～6」試験の目的別分類・試験の種類・試験の効果 第15回：第8章「評価と試験1～2」評価の種類・評価の対象			
スクーリングでの学修 1日目・・教員の模擬授業を受講して初級指導の基本を学び、実際に教案を作成する 2日目・・コースデザインや日本語教育の現場について学ぶ。1日目に作成した教案で模擬授業を行い、教員のフィードバックを受ける			
テキスト ・高見澤孟「増補改訂版 新・はじめての日本語教育2」アスク出版 978-4-87217-994-1 ・スリーエーネットワーク編著「みんなの日本語 初級Ⅰ、初級Ⅱ 第2版 本冊」スリーエーネットワーク978-4-88319-603-6			
参考書・参考資料等 ・高見澤孟著、監修、ハント陸山裕子、池田悠子、伊藤博文、宇佐美まゆみ（2016）増補改定版「新・はじめての日本語教育Ⅰ」アスク出版、978-4-87217-993-4 ・「みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ 第2版 本冊」の巻末に副教材のリストがある。適宜参考にすること。			
学生に対する評価 スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）			